

テーマ：雇用関連統計（2012年3月）

発表日：2012年4月27日（金）

～求人は改善傾向続くが、ミスマッチの存在が雇用を抑制～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528

○失業率は横ばいだが、就業者数、雇用者数が減少

総務省から発表された2012年3月の完全失業率は4.5%となり、前月から変化がなかった（市場予想：4.5%）。ただし、就業者数は季節調整済み前月差▲17万人、雇用者数は同▲26万人と揃って減少している。今月失業率が悪化しなかったのは、労働市場からの退出が進んだことによるものであり、内容は悪い（労働力人口も前月差▲21万人）。

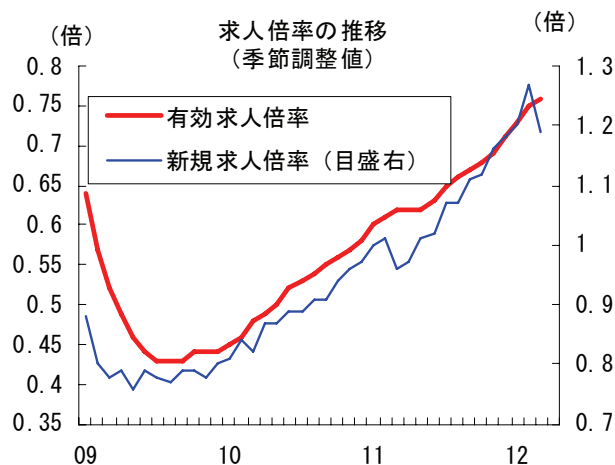
就業者数は2012年1月に前月差▲35万人、2月に同+29万人、3月に▲17万人、雇用者数は1月に前月差▲18万人、2月に同+5万人、3月に▲26万人と、悪化と改善を繰り返す一進一退の状況にある。昨年の震災後、雇用が大幅に減少した後、秋以降には下げ止まりの動きがみられたが、その後の改善は遅々として進んでいない。

○求人は改善傾向続くが、ミスマッチの存在により雇用の伸びは限定的

雇用の先行指標である求人は改善が続いた。厚生労働省から公表された有効求人倍率は0.76倍（2月：0.75倍）となり、前月から0.01ポイント改善した（市場予想：0.76倍）。有効求人数も前月比+1.7%と12ヵ月連続で増加しており、求人動向は明確な改善が続いている。特に被災地での求人が増加傾向にあり、復興需要を背景とした建設業の求人が増えていることが窺える。

一方、新規求人倍率は1.19倍となり、前月（1.27倍）から大きく低下したが、これは分母となる新規求職者数が前月比+8.1%と大幅に増加したことによるものである。新規求人数は前月比+1.6%と改善傾向が持続しており、特に問題はないだろう。

だが、前述の通り、こうした求人の増加が雇用になかなか繋がってこない。求人と求職のミスマッチが深刻化していることが背景にあるとみられ、今後も求人が増加する一方で雇用が伸びにくい状態が続くだろう。先行きについては、足元で景気に明るさがみられていることから、今後は雇用者数も増加していくものと思われるが、そのペースは緩やかなものにとどまる可能性が高い。



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値